

古典文法テスト

第1回 動詞 (二)

氏名 ()

次の文中の動詞にすべて傍線を引き、活用の種類 (○行○段活用) と活用形を書け (略した形でいいよ)

①八月十五日ばかりの月に出で 居て、かぐや姫いといたく泣き 給ふ。

ヤ行下二・連用

ダ行下二・連用 ワ行上一・連用

力行四段・連用 ハ行四段・終止

②富士の峰かすかに見えて、上野・谷中の梢、またいつかはと心細し。

ヤ行上二・連用 ハ行四段・命令

③老いては子に従へ。

動+動
a 「一し、ぞして—する」と解せる時は、別々の二語
b 「」
c 「」
「」と解せないときは、一語の複合動詞

④なんとてかかる憂き目をば見るべき。

ラ変・連体

マ行上一・終止

⑤「いづら (=ど) 行つた?」、猫は。こち率て 来。

ラ行上二・連用 「古くなる」の意

サ行四段・連体

ラ変・已然

⑥世にふりぬることをも、おのずから (=中には) 聞きもらすあたり (=人) もあれば、…

⑦白露の色はひとつを (=一つなのに)

マ行下二・終止

いかにして (=どうして) 秋の木の葉をぢぢに染むらむ

「木の葉を」とあるのだから、他動詞のはず。といふことは、下二段。「染む(四段)」は「染マル」という意味の自動詞である

サ変・連用 ヤ行上一・未然 サ変・已然 力行四段・連用

⑧念じて 射んど

すれども、外ざまへ行きければ、…

ナ行下二・連用 力行上二・終止 「起く」である。文脈考えてごらん。「置く(四段)」のはずないでしょ。

⑨タゞに寝ねて、朝におく。

力行四段・連用 タ行下二・終止

⑩「觀音火杭變成池はいかに」と札を書いて、大門の前に立つ。

文脈考えてごらん。札を「書」いたんだから、それを「立てた」んでしょ。すると、下二段のはず。